

事業所名

ABUW春日・ABUW筑紫野・ABWU大野城
ABUWPERSONAL・ABUW福岡南

支援プログラム

作成日

令和 8 年

4 月

1 日

法人（事業所）理念		発達のゆっくりなこどもの興味や特性、発達段階に寄り添いながら、運動療法、感覚統合を中心に身辺自立や基本的な体の使い方、人との関わり方などを、楽しく学んで身に付けられるように支援します。 こどもの気持ちや目線を保護者や園の先生に共有して、相談できる存在となり、信頼関係を築き、安心して過ごせる環境を作っていきます。						
支援方針		集団療育と個別療育を組み合わせたハイブリッド型アプローチ 1. 運動療法・感覚統合に特化：療育の基本ベースを「運動療法」「感覚統合」とし、運動感覚入力や脳活動への刺激を促す。 2. 医療専門職の配置：理学療法士・作業療法士等を常勤配置し、身体・精神機能と療育的観点を双方から、個々に応じた支援をおこなう。 3. 2部制の短期集中プログラム：特性に応じたクラス分けと短時間支援により保育所等の母集団との支援内容のメリハリをつける。 4. 保護者も楽しむ療育：保護者が療育に参加するきっかけづくりとして、定期的なイベントを開催する。						
営業時間		8 時	30 分	17 時	30 分	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	運動療法にて粗大運動を取り入れ、体力や運動能力の向上を目指し、健康状態の維持・改善に繋げる。 靴、靴下の着脱、上下位更衣、トイレトレーニングを活動の中で取り入れるなど、基本的な生活動作の獲得。 生活習慣や生活リズムの形成 曜日や時間を固定して通ってもらうことで見通しを持ち、生活習慣や生活リズムの形成に繋げる。						
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、さまざまな体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援。 滑り台・トランポリン・一本橋等、複数の運動遊びを通して、体の動かし方を学び運動の楽しさを感じると共に、運動能力の向上に繋げる。 操作性、手指機能等の成長を支援。 水・砂・泥んこ・粘土・絵の具・ボディペイント等の感触遊びを通して、さまざまな素材の感触やにおい、音などを感じ五感を育む。						
	認知・行動	身体部位・色・比較・位置・分類・感情概念・時間概念・数・四則演算・図形に関するプログラムを実施。 認知の特性についての理解と対応、対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得、行動障害への予防及び対応を支援。 大小、数、重さ、空間、時間、文字等の概念の形成を図り、認知や行動に活用できるよう支援を行う（スケジュール説明時に日付・人数を確認等）。 記憶、弁別力、構成力を養う。 状況の変化への対応（適応の難しさ等への支援）。						
	言語 コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力の向上、言語の受容と表出、言語の形成と活用、状況に応じたコミュニケーションの支援。 要求、報告、聴く、模倣、観察するなど、自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学ぶ。 言葉だけでなく指差しや身振り、ジェスチャーやサイン、絵カード等のコミュニケーション手段を選択・活用し、こどもに合わせた視覚的な支援を行う。						
	人間関係 社会性	アタッチメント（愛着）の形成と安定、遊びを通じた社会性の発達、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加の支援。 環境に対する安心感、人に対する信頼感、自分に対する自己肯定感を育む。模倣、ごっこ遊び、協同遊びなどを通して社会性の発達を支援する。 待つ、譲るなど遊びを通してながら気持ちをコントロールする力を育む。 思いが通らない等で気持ちが昂った状態の時は、発達段階に合わせて関わり、気持ちの発散や切り替えの方法を考える。						
家族支援		子育ての助けとなるように、本人の強み、感覚や認知の特性などをお伝えし、必要に応じて面談の機会を設ける。 ご希望により親子療育も行い、本人との接し方を知ってもらう。			移行支援		本人の強み、感覚や認知の特性を移行先と情報共有し、本人や受け入れ先が安心して過ごせるように支援する。 保育所等だけでなく、他児童発達支援事業所等を利用される際も本人の支援がスムーズにいくよう情報を共有する。	
地域支援・地域連携		必要に応じて保育所等と情報共有し、本人が安心してすごせるよう支援する。			職員の質の向上		1週間に一度外部講師による勉強会実施。 各店舗症例検討実施。	
主な行事等		春、秋遠足 卒業イベント 各季節のイベント						